

ふじのくに 静岡みなと通信

第26号
2017.1.23



田子の浦港50周年記念「帆船 日本丸」寄港

～ 目次 ～

- 静岡みなと通信「第26号」発行に寄せて(伊豆市長)..... 1
- 静岡県港湾振興会の活動報告..... 2
- みなとニュース..... 4
- みなと自慢(田子の浦港)..... 11
- 港こぼれ話..... 13
- 港湾関係行事予定..... 15



「帆船 日本丸」登しょう礼(田子の浦港)

写真提供:富士市

静岡みなと通信「第26号」発行に寄せて



静岡県港湾振興会評議員
伊豆市長 菊地 豊

港湾は、国民生活と産業活動を支える重要な物流と生産の基盤であり、災害により内陸の交通手段が被害を受けた場合には緊急物資等の運搬において海上輸送が重要な役割を担っており、防災拠点としての港湾施設の整備が急務となっております。

さて、当市の土肥港は伊豆地域の海の玄関口として、清水港と結ぶカーフェリーにより海上交通の要所として多くの人々に利用されています。この清水ー土肥航路は全国的にも例のない海の県道として平成25年に「県道223（ふじさん）号清水土肥線」に認定され、同年、富士山の「世界文化遺産」登録と併せて全国から注目を集めています。平成32年には伊豆半島で東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会自転車競技（トラック・レース/マウンテンバイク）が開催されることが決定し、話題性に富むエリアにある中、土肥港は静岡空港とのアクセスも考慮に入れた伊豆半島の海の玄関口として、今後も更なる利活用が期待されます。一方、土肥港周辺では海を活用したイベントやレジャーも盛んで、「土肥サマーフェスティバル」での海上花火大会や「とびうおすくい」などのイベントは毎年恒例となっております。さらに波の穏やかな「土肥海水浴場」、磯遊びの楽しめる「小土肥海水浴場」のほか、海の釣り堀やダイビング、シーカヤックが楽しめる施設もあり、年間を通じて海で楽しめるスポットとして大人から子どもまで多くの方々に親しまれています。

私たち「静岡県港湾振興会」はこれからも港湾施設の利便性向上と環境整備の充実、災害に強い施設の強化等を図るため、積極的に活動してまいります。本会の活動を通じて、皆様方により一層のご支援、ご協力を賜れば幸いに存じます。



清水港と土肥港を結ぶカーフェリー



東京2020大会自転車競技（トラック・レース）会場の伊豆ペロドーム



土肥サマーフェスティバルでの海上花火大会



磯遊びの楽しめる小土肥海水浴場

静岡県港湾振興会の活動報告

日本港湾協会の平成28年度定時総会に出席

平成28年5月26日(木)、愛媛県松山市のひめぎんホールで日本港湾協会の総会が開催され、当振興会からは柳澤重夫副会長(御前崎市長)をはじめ、18名が出席しました。

総会では、港湾功労者表彰式が行われ、向島克彦様(清水埠頭(株)常務取締役)、田子の浦埠頭(株)様、長橋充雄様が受賞されました。



定時総会

静岡県港湾整備促進大会を開催

平成28年7月22日(金)、清水テルサにおいて、多くの港湾関係者や行政関係者等の御参加をいただき、港湾整備促進大会を開催しました。

田辺港湾振興会会長(静岡市長)のあいさつの後、数田県議会副議長、難波静岡県副知事をはじめ来賓の方々からごあいさつをいただきました。

御出席をいただいた市町長から「地域の声」と題して意見発表をいただき、大会の最後には、「静岡県の港湾整備の促進に関する要望」を満場一致で決議し、関係各方面に対して運動を展開していくこととしました。

また大会に先立ち、日本海事新聞社 編集局取材部 沖田一弘部長を講師にお迎えし、「近年のクルーズ客船誘致と受け入れについて」と題して、御講演をいただきました。



田辺会長(静岡市長)あいさつ



柳澤副会長(御前崎市長)による決議文の読み上げ



講演会の様子

経済と暮らしを支える港づくり全国大会に参加

平成28年10月20日(木)、東京の砂防会館において、日本港湾協会、全国港湾知事協議会、全国市長会港湾都市協議会、日本港湾振興団体連合会、港湾海岸防災協議会の港湾関係5団体による実行委員会が主催する、「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」が開催されました。

当振興会からは田辺静岡市長、小長井富士市長、柳澤御前崎市長、齊藤熱海市長、福井下田市長をはじめ33名が出席されました。

大会では、来賓として多数の国会議員をお招きし、各地区の港湾所在市町村長の代表による港湾整備・振興に関する意見表明、港湾整備の推進に向けた決議が行われました。

大会に先立ち、ホテルグランドアーク半蔵門で東海地区港湾協議会主催による国会議員との懇談会が行われ、田辺静岡市長が静岡県代表として意見を表明され、本県港湾整備への支援を訴えました。

大会終了後は、県内選出の国会議員へ要望活動を行いました。



経済と暮らしを支える港づくり全国大会の様子

県外港湾視察研修

静岡県港湾振興会では、平成28年11月14日(月)～16日(水)の3日間、会員団体等から16名が参加し、岡山県の水島港、牛窓港、広島県の厳島港、広島港の視察研修を実施しました。

水島港では、水島港国際物流センターにて、港の概要のほか港湾運営会社と県の役割分担、コンテナターミナルの運営状況、クルーズ船の誘致戦略や寄港状況などの説明を受けました。コンテナ貨物量増加対策の一助として、港の振興団体が情報誌「MITA」を10年前に創刊し、PR・営業活動を行っているとの話がありました。



水島港国際コンテナターミナル 概要説明



牛窓ヨットハーバー クラブハウス



牛窓ヨットハーバー 概要説明

2日目は、牛窓港の牛窓ヨットハーバーを視察しました。牛窓は「日本のエーゲ海」とも称される瀬戸内海を代表する観光地の一つですが、ヨットハーバーは、昭和58年に整備着手し、段階的に保管施設を供用開始し、平成6年4月にはクラブハウスが完成しました。保管施設は、供用後10年間は空きがない状況でしたが、徐々に利用が減少し、現在は半分程度で、利用者の高齢化や指導者不足も課題となっています。利用拡大のため、体験ヨット教室や、子供から高齢者・障害者の方でも簡単に操れるハンザクラス（倒れにくいヨット）の教室等を開催する一方、海洋性スポーツに関する知識の普及及び実技の指導も行っているとの話がありました。

午後は広島県に移動し、厳島港(宮島口)の港湾整備事業について現地を視察しました。宮島口地区は、年間約400万人が訪れる日本三景・世界文化遺産「厳島神社」の玄関口であるため、フェリーの運航を1日たりとも止めないように、3分割でフェリーターミナルの工事を進めています。今後はターミナルビルを建設し、東京オリンピックまでに栈橋とターミナルビルを結ぶ経路に屋根を整備し利便性の向上を図る計画です。年間船舶乗降人員数全国1位(平成26年:約772万人)

の厳島港は、視察当日も大勢の観光客で賑わっていました。

広島港では、広島港国際コンテナターミナルの利用状況、管理運営状況、クルーズ客船寄港への取組、魅力あるみなとづくりについて説明を受けました。大型クルーズ客船は寄港回数が増加し、平成27年度が32回(大型5回)、平成28年11月10日時点で38回の予定(大型12回)です。港には、客船の見物やイベント・物販に約4,400人の一般見学者が集まり、周辺の渋滞や夜間の警備体制等が新たな課題となりました。

「晴れの国おかやま」での視察初日は小雨でしたが、視察時間には雨もあがり、その後の視察は好天に恵まれました。各担当者からの丁寧な概要説明をいただき大変有意義な研修となりました。



厳島港(宮島口) 現地説明



広島港国際コンテナターミナル



みなとニュース



静岡県のクルーズ動向

～静岡県に初寄港となる外国クルーズ船が続々入港!～ 静岡県港湾企画課

世界的なクルーズ人気を反映し、本県を訪れるクルーズ船も年々増加しています。
今年には御覧の4隻が記念すべき初寄港となりました。

下田港に初めてクルーズ船が寄港しました。地方港湾にも寄港のチャンスは増えています。

4月

下田・清水



ルソレアル

総トン数:10,700トン／全長:142.10m／
全幅:18.00m／乗客定員:264名／
建造:2013年／船籍:フランス
◎メガヨットを思わせる外観の「食通の船」

6月

清水



コスタ・ビクトリア

総トン数:75,166トン／全長:252.91m／
全幅:32.15m／乗客定員:2,394名／
建造:2000年／船籍:イタリア
◎アジア就航で人気を集める、気軽に乗れるイタリア客船

10月

清水



シルバー・シャドー

総トン数:28,258トン／全長:186.00m／
全幅:24.80m／乗客定員:423名／
建造:2000年／船籍:バハマ
◎フルコースディナーを客室で楽しめるサービスが好評



ロストラル

総トン数:10,700トン／全長:142.10m／
全幅:18.00m／乗客定員:264名／
建造:2011年／船籍:フランス
◎プライベート感あふれるフランスのヨット型客船

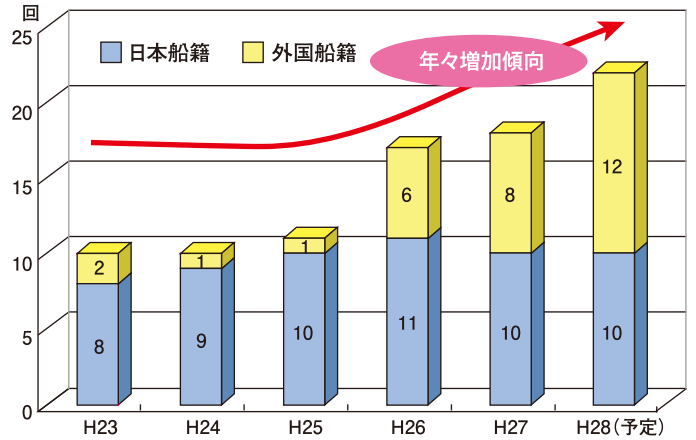
～クルーズ船誘致に向けた全県的な取組～

今年度、県内港湾へのクルーズ船寄港回数は昨年度を上回る 22 回となる予定です。

クルーズ船の寄港は、地域振興や地域経済の活性化へ大きな効果が期待されることから、本県でも、港湾施設の整備や受入体制の充実により、クルーズ船誘致による地域のにぎわい創出と交流人口の増大を促進していきます。

クルーズ船寄港実績のある県内港湾は、清水港、田子の浦港、御前崎港、熱海港、伊東港、下田港です。クルーズ船誘致の機運は、毎年邦・外国船の寄港回数を伸ばしている清水港をはじめ、県内各港湾で高まっています。また、寄港地観光に訪れる乗客の増加を見込み、港所在地以外の地域でもクルーズ船への期待は大きくなっています。

県内クルーズ船の寄港数推移



夜の飛鳥II(伊東港)



熱海城から見たにっぽん丸(熱海港)



ペリーロードを訪れるクルーズ客(下田)



クルーズ船の見物客でにぎわうみなと(清水港)

今後県は、県内市町における客船誘致組織の設立を支援するとともに、これら組織が連携できるよう、「ふじのくにクルーズ船誘致連絡協議会」を設置し、クルーズ船に係る情報の共有化や、県全体での効果的な誘致活動を推進していきます。

大型クルーズ船対応の岸壁整備 静岡県港湾整備課

清水港に今まで寄港した最大のクルーズ船は、ダイヤモンド・プリンセス(11万GT級)です。近年ではクルーズ船の大型化が進んでおり、世界最大のクルーズ船はオアシス・オブ・ザ・シーズ(22万GT級)となっています。

また、国土交通省が、2016年3月に「明日の日本を支える観光ビジョン」をとりまとめ、「訪日クルーズ旅客を2020年に500万人」という目標を設定しており、今後は、清水港においても、大型クルーズ船の寄港増が期待され、受入環境の整備に取り組んでいます。

現在、クルーズ船の受入を行っている日の出岸壁では、大型クルーズ船の係留には機能が不十分で、綱取りのため背後ヤードに使用制限が発生して利用上の障害となっていることから、22万GT級の大型クルーズ船に対応した係船柱を岸壁の前面に設置し、係留機能の強化と岸壁の有効利用を可能とする改良工事を行っています。

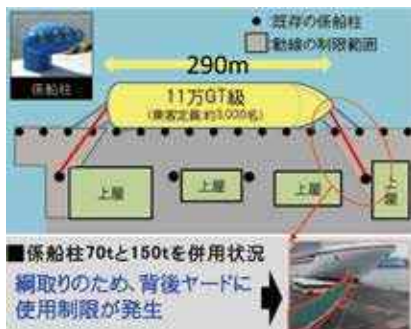


22万GT級の大型クルーズ船に対応した係船柱



大型クルーズ船の受入環境改善(清水港)

※国土交通省HPより



係船柱の大型化

既存岸壁を活用し
受け入れ機能の強化を可能に



※国土交通省HPより

「浜名湖公共マリーナ津波避難マニュアル」を作成しました

公益財団法人
浜名湖総合環境財団

公益財団法人浜名湖総合環境財団は、浜名湖のプレジャーボート放置艇・係船対策として7箇所の公共マリーナ、17箇所の公共係留施設及び舞阪PBS(プレジャーボートスポット)の管理・運営を行っています(平成28年4月1日現在、係留保管隻数2,752隻)。

財団では、平成23年に発生した東日本大震災を教訓に、防災対策として、係留施設の津波対策改修工事やマリーナ内への防災棧橋の設置等の事業を進めてきました。

そして今年の4月には、新たな取り組みとして「浜名湖公共マリーナ津波避難マニュアル」を作成して係船者に配布しました。このマニュアルは、係船者が「自分の命は自分で守る」という防災意識を高めることを目的とし、地震津波発生から避難までのフローチャート、各公共マリーナ付近の避難所等の施設の紹介など、避難の際に必要な情報を盛り込んでいます。



浜名湖公共マリーナ津波避難マニュアル



浜名湖公共マリーナ(湖西市新居町中之郷)

駿河湾が「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟決定! 静岡県港湾企画課

平成28年11月、駿河湾が「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟決定しました。

「世界で最も美しい湾クラブ」とは、フランスに本部を置くNGOで、世界25カ国41湾が加盟をしています。加盟湾には、フランスのモン・サン・ミシェル湾やベトナムのハロン湾などがあり、国内では駿河湾のほか、松島湾(宮城県)や富山湾(富山県)、宮津湾・伊根湾(京都府)が同じく加盟しています。

駿河湾は一昨年度から本クラブの加盟に向けて取り組み、平成28年2月には、川勝知事がフィリピン、プエルト・ガレラ市で開催された総会において加盟意思を表明するプレゼンテーションを行いました。また、同年5月にはクラブ本部役員による現地調査が実施されました。



知事によるプレゼンテーション



駿河湾現地調査(黄金崎)

そして平成28年11月2日(水)、メキシコ、プエルト・バイタルタ市で開催された世界大会・年次総会において、難波副知事がプレゼンテーションを行い、駿河湾と富士山が織りなす景観の美しさ、日本一の深さを誇る湾の生物の多様性、文化・産業との調和等が評価され、正式に加盟となりました。

今後は駿河湾のもつ魅力を国内外へアピールし、沿岸市町等と協力しながら湾の更なる活用・保全に取り組んでいきます。



加盟承認(メキシコ)



Splendid Suruga Bay

駿河湾

THE BAY AT THE FOOT OF MOUNT FUJI

県内外でセミナーを開催し、清水港・御前崎港をPR 静岡県港湾企画課

清水港、御前崎港の利用促進を図るため、本年も各地でセミナーを開催しました。

【清水港ポートセールス実行委員会】(静岡県、静岡市、清水港利用促進協会で組織)

- 清水港／富士山静岡空港セミナー(平成28年7月15日(金)山梨県甲府市内) 参加者 約400名
- 首都圏清水港セミナー(平成28年10月31日(月)東京都内) 参加者 約950名



清水港／富士山静岡空港セミナー(甲府)



清水港セミナー(東京)



御前崎港セミナー(浜松)

【御前崎港ポートセールス実行委員会】(静岡県、御前崎市、牧之原市、民間事業者で組織)

- 御前崎港セミナー(平成28年10月12日(水)浜松市内) 参加者 約200名

各セミナーでは、港湾周辺の高規格道路整備の進捗や新規航路の開設による清水港・御前崎港の利便性の向上、優位性をPRし、より一層の利用拡大を参加者に訴えかけました。

ビーチスポーツも楽しめる環境緑地が完成(焼津漁港) 静岡県漁港整備課

焼津漁港では、背後地に都市部のある都市型漁港として、漁業者だけではなく市民の憩いの場としても漁港が親しまれる開かれた漁港を目指し、環境緑地の整備を進めてきました。このたび、最後の整備箇所である焼津漁港ふいしゅ一な多目的広場が完成を迎え、平成28年8月6日(土)に完成式典を開催しました。

式典には、主催者として難波副知事、中野焼津市長、来賓として井林衆議院議員、高吉水産庁漁港漁場整備部長、日本ビーチ文化振興協会の遊佐副理事長ほか、関係者約150名が出席し、施設の完成を祝うとともに、多目的砂広場において地元団体によるビーチスポーツ等のデモンストレーションを行い、大いに盛り上がりました。

今後は、この環境緑地が水辺に親しむ場所として、市民・県民に幅広く利用されるよう、焼津市とともにPRに努めてまいります。



主催者・来賓者によるテープカット



デモンストレーション(ビーチバレー)

清水港・みなと色彩計画創設25周年記念

振りかえれば未来～色彩計画四半世紀 共創の取組み～

静岡市経済局商工部
清水港振興課

平成28年9月3日(土)、清水港・みなと色彩計画25周年記念事業として海上見学、日本三大美港～清水・神戸・長崎をつなぐ～(みなとまち交流会)、記念式典・講演、清水港の未来に向けた大学生による「美しいみなと宣言」が行われ、多くのご来賓、関連企業や団体、行政、市民参加のもと清水文化会館マリナートにて盛大に開催されました。

清水港・みなと色彩計画は、殺伐とした産業一辺倒であった港湾を霊峰富士山に調和した清水港の風景づくりを目的に、様々な困難を産官学民の協働の力により乗り越え、港の進化とともに景観を共有財産としてOnly Oneの風景を創りあげてまいりました。

今後は、静岡市の海の玄関口として物流とともに大型客船やイベント等によるみなと文化を育み、国内外からの観光交流促進にむけ住む人働く人には誇りの持てる、訪れる人には感動を与えられる清水みなとまちづくりに取り組んでまいります。



※先駆的で継続的な地域の総力を挙げた地域づくりとして、平成27年度には地域の魅力や個性を生み出す良質な社会資本として、国土交通大臣表彰「手づくり郷土(ふるさと)賞」の大賞部門に認定されました。

清水港テルファーライトアップ ～海と光の空間 Sea Light Harbor～

株式会社ドリームプラザ

エスパルスドリームプラザ海側デッキでは、平成28年11月12日(土)から、機械遺産である「清水港テルファー」のライトアップをはじめとする清水港冬のイルミネーションがスタートし、きらびやかな景色が広がっています(16時から24時まで)。

荷物を吊り上げて移動させるクレーンの一種である「清水港テルファー」は、昭和3年(1928年)に完成し、テルファー形式の木材荷揚げ機械としては日本に現存する唯一のものです。

清水港のシンボルとも言える機械遺産の幻想的なライトアップ(常時点灯)と、イルミネーションや音楽の連動が織りなすダイナミックなショー(定時開催)が、来る人の目を楽しませています。

また、エスパルスドリームプラザ施設全体では「清水港 海と光の空間」をコンセプトに、海側デッキ・館内各所が、アクアブルーとホワイトを基調としたイルミネーションで彩られています。

清水港冬のイルミネーションは、平成29年2月28日(火)まで開催しています。皆様ぜひ華やかなイルミネーションをお楽しみください。



テルファー



ドーム

「清水港一大分港」にRORO船の新規定期航路が開設されました 静岡県港湾企画課

10月3日(月)、清水港一大分港にRORO船の定期航路が新規に開設されました(運航者 川崎近海汽船(株))。新航路は、利用しやすい「定時・定曜」を特長としており、まずは、週3便の運航によりサービスが開始されました。

■新航路開設の社会的意義

物流業界を取り巻く課題として、トラックドライバーの人材不足や高齢化、厳しい労働環境や地球温暖化問題への対応が深刻化しており、これらに対応するため、トラックによる貨物輸送を環境への負荷が軽いかつ大量輸送が可能な海運または鉄道による輸送に転換する「モーダルシフト」の取組が注目を集めています。今回、新たに就航するRORO船は、このモーダルシフトの担い手として期待されています。

■新規航路の開設

10月3日(月)12時から、運航者である川崎近海汽船(株)により、静岡市内のホテルで新航路の利用者や港湾事業者等約230名を招いた「清水一大分航路開設披露祝賀会」が開催されました。

静岡県からは、来賓として難波喬司副知事が「関係者全員でこの新規航路を育てていくことをお願いしたい」とあいさつしたのち、石井繁礼代表取締役社長らとともに鏡開きを行い、航路の発展を祈念しました。

また、同日の16時から、新航路の接岸エリアである清水港の袖師第一埠頭において、初入港に対する歓迎セレモニーと内覧会が、静岡県の主催で開催されました。

藤浪哲也清水港管理局長からの歓迎のあいさつのほか、記念品として清水港をモチーフとした額絵が贈呈されました。内覧会では、港湾関係者や報道各社等に操舵室やシャーシの積載エリア等が公開され、初めて就航したRORO船について、理解を深めました。

■利用者説明会の開催

県では、社会的な課題への対応や地域の活性化につながる取組として、RORO船の利用促進を官民協働により積極的に取り組んでいます。

9月上旬以降、荷主企業や物流関係事業者に向けて情報提供する利用者説明会を、県内外9か所で開催しました。説明会では、民間船会社や国土交通省、開催県等と連携し、参加者に物流オペレーションの選択肢として、RORO船による輸送を検討していただけるようPRを行いました。多くの参加者から、「是非検討をしたい」等の積極的な声をいただいております、関係者一同、手応えを感じているところです。

今後は、航路開設後の利用状況の調査分析を踏まえ、効果的な需要の掘り起こしを行うことにより集荷を支援し、積載率の向上、更には増便の実現を目指していきます。



RORO船「北王丸」



荷役の様子



祝賀会の様子(難波副知事挨拶)



利用者説明会の様子(大分県庁にて)

みなと“白慢”

富士市産業政策課
港湾振興室

～富士のもと夢をつなげて50年～

1. 田子の浦港の沿革

奈良時代の歌人・山部赤人が「田子の浦ゆ うち出でてみれば真白にぞ 富士の高嶺に雪は降りける」と詠った田子の浦港は、駿河湾の最深部に位置する重要港湾で、世界遺産「富士山」に最も近い港です。

古くは「吉原湊」と呼ばれた田子の浦港は、富士山麓の南を流れる沼川と潤井川の合流点に建設された「堀込式人工港湾」で、昭和33年から10余年の歳月と総工費130億円をかけて完成しました。

富士市を中心とする岳南地域は、遠く江戸時代からの特産地として名高く、近代になると製紙・パルプ工業などの軽工業が発達し、戦後は、食品加工・化学・繊維・自動車・電気機械などの大企業が進出したことから、新しい工業地域として、静岡県は産業基盤整備を重点とした総合開発計画を策定し、この岳南地域に駿河湾臨海工業地帯の拠点とする「工業港」の建設を決定し、昭和33年4月より工事に着手しました。

工事は、海底勾配が急峻でしかも太平洋の荒波を直接受ける漂砂海岸という厳しい自然条件の中で進められ、昭和36年8月に開港しました。翌37年2月待望の第一船入港、39年4月には重要港湾、41年4月には関税法による開港の指定と、名実ともに国際貿易港として順調に伸展し、平成28年4月に開港50周年を迎えました。

現在、田子の浦港周辺は、化学、製紙、食品等の製造業、セメントサイロ、石油配分基地等が立地しており、静岡県東部地域の原材料を供給する会場輸送網の拠点港として重要な役割を果たしています。

また、田子の浦港は立地にも恵まれ、国道1号線が港に隣接し、東名高速道路、新東名高速道路に近いなど、交通のアクセスの良さに加え、地形的要因から、発生が危惧されている「南海トラフ巨大地震」における津波発生時でも、被害が格段に少ない災害に強い港になっています。

現在は平成13年に港湾計画が策定され、平成20年代前半を目標年次とする港湾計画に基づき整備が進められています。

この計画では、「産業活動を支える物流機能の高度化」として機能整備を、「市民生活向上への寄与」として環境・施設等整備を重点的に進めていくとともに、入港船舶の大型化等に対応した施設整備を更に展開していくこととしています。

2. 田子の浦港振興ビジョン

平成25年6月に富士山の世界文化遺産登録、平成25年7月に静岡県第4次地震被害想定が公表されたことで、田子の浦港をとりまく状況は大きく変化を遂げました。



「ふじのくに田子の浦みなと公園」山部赤人石碑



「ふじのくに田子の浦みなと公園」より望む田子の浦港

まず、富士山の世界遺産を契機として「富士山に一番近い港」として、その眺望の素晴らしさから注目を集めました。また、同時期に田子の浦港の新鮮な生しらすがテレビ等のマスコミで注目を集め、工業港としての役割だけの田子の浦港に観光的な価値が見出され始めました。

さらに、同年の7月には静岡県から第4次地震被害想定が公表され、新たな津波被害想定は多くの港湾にとって衝撃的な結果となりました。そのような状況下において、田子の浦港は地形的な特徴から津波被害が県内では相対的に小さいことが判明しました。このため、県内東部地域の防災拠点港としての役割を担うべく、防災機能のさらなる強化を図るため、津波対策事業が求められています。

このような背景から、みなとの「にぎわいづくり」と「防災対策」を目的にみなとの将来像を描いた、「田子の浦港振興ビジョン」を平成26年9月に策定し、現在、様々な事業を展開しています。

3.これからの50年

田子の浦港の取扱貨物量は県内2位を誇っていますが、紙需要の減少に伴うパルプの輸入減により、取扱貨物量は減少傾向にあります。しかしながら、新たな石炭火力発電所の立地により石炭の輸入が増加するなど、港のストック効果により取扱貨物量の減少も底が見えてきました。今後は、田子の浦港の持つポテンシャルである「アクセスの良さ」、「防災能力の高い港」などの強みを活かしたポートセールス活動を展開し、港勢の回復につなげてまいります。

田子の浦港のにぎわいづくりについては、明るい兆しが多くあります。平成26年から2年連続で富士山観光のために客船につぼん丸が寄港しました。また、田子の浦漁協食堂は年々、来場者を増やし、年間6万人が訪れる富士市の一大観光スポットに成長しています。さらに、富士市が平成26年度から開催している、海と船に親しむことをコンセプトとした、「田子の浦ポートフェスタ」は、本港初寄港の船を招くため、毎年5千人以上の来場があり、ベイエリアの活性化に寄与しています。

関係者の皆様のご協力により、田子の浦港は本年度、開港50周年を迎えることができました。11月10日に行われた「田子の浦港開港50周年記念式典」では多くのご来賓や関係者の皆様にお集まりいただき、同日に入港した帆船・日本丸と共に盛大にお祝いすることができました。

開港50周年記念事業にご協力いただきました皆様には感謝申し上げますとともに、時代のニーズに合った港湾物流機能の拡充を図り、防災機能を向上させるなど利用者の方々が安心して利用できる港づくりを進めてまいります。また、港が市民にとって親しみが持てる、にぎわいの拠点としての整備も進め、地域に愛される港として、次の100年に繋がる事業を展開してまいります。



客船につぼん丸寄港 歓送イベントの様子



帆船・日本丸 セイルドリルの様子



富士山と日本丸

～港こぼれ話～

駿河湾港への期待

元静岡県交通基盤部理事(土木技術担当)
岩田 良明



1.はじめに

昭和49年5月9日8時半すぎ、新人研修を終えて着任した清水港管理事務所で突然大きな地震に見舞われた。まだ緊急情報システムが未整備で、すぐには被害状況が把握できなかったが、昼のニュースが南伊豆町を震源とする地震で大被害が出ていると伝えてきた。30名の方が崖崩れの犠牲になった伊豆半島沖地震(M6.9)であった。2ヶ月後、いつもなら満天の空に美しい天の川が流れるはずの七夕の夕から降り出した豪雨は、静岡市や清水市で大規模な浸水により多くの犠牲者を出すなど激動の年であった。

当時の清水港では、日の出の波止場から出る連絡船が満員の乗客を乗せ三保や貝島に向けて運航され、不夜城のような工場群など活気にあふれた時代であった。港湾事業についても、臨港道路や江尻、袖師第二埠頭などの工事が最盛期を迎え、大型の重機や作業船が動き回っていた。橋梁部だけで700mを超える崇徳橋(ストックトン)(建設時は江尻立体高架橋)を担当していましたが、橋梁下を通る国鉄清水港線との離隔を確保するため、橋脚のウイング部分を線路と平行に建造してから90度回転させる「回転ピア」や大口径の場所打ち杭など、最新の技術に触れる毎日で忙しいながらも充実した日々であった。

2.環境政策との関わり

港湾課に異動となった昭和52年は、田子の浦港の



公害防止対策事業、清水港、熱海港、伊東港などの環境に関わる事業が最盛期を迎えていた。国際的にも環境保全に対し厳しい目が向けられ始めた時期でもあり、浚渫土などの投棄による海洋汚染の防止を目的とした「廃棄物その他の物の投棄による海洋汚染の防止に関する条約」(ロンドン条約)が1972年に(日本では1980年に国内発効)採択され、相前後し「海洋汚染防止法」等多くの法律が施行されるなど環境元年とも言える時代であった。このような変化に対応すべく計画された清水港の三保貝島地区の廃棄物埋立護岸についても、再三にわたり予算の繰越をしていたが、関係者との調整に目途が立ち設計やアセスメントなど公有水面埋立法の事前準備に着手した時期でもあった。現在、衛星写真でも陸地が確認できる程となってきた埋立護岸は、設計時から大水深岸壁として背後地は埠頭用地などに高度利用していく方針が進められた。

2-1) 熱海港(渚地区)海岸環境事業

金色夜叉で有名な「お宮の松のある熱海港の渚海岸」は、テトラポットに埋め尽くされ寂しげな景観を呈していた。新幹線から眼下に見下ろすことのできる景観に対する苦言などに加え、夏季になると海水浴のできる伊東、下田方面に観光客が流れ、夏枯れとも言える状態が続いていたことも事業推進のエネルギーとなった。また、同時期に高潮防止を目的に整備した離岸堤が概成し、外郭施設が不要であったことも事業化に弾みをつける一因であった。海象条件の厳しい熱海港で人工海浜が維持できるのか一抹の不安もあり海象条件などの調査を続けていたが、当時最先端の技術力を有する運輸省港湾技術研究所に助言を得ることとなり、佐藤次長(後に所長)、木村主任研究員の現地調査が事業の本格的な始まりであった。運輸省港湾技術研究所における模型実験により、突堤の配置・形状をどのようにすれば養浜が安定するのか、閉鎖海域の汚濁状況の変化などを検証しながら事業が本格化していった。

多くの方々の努力により整備された海岸は、熱海サンビーチと命名され、夜になると青や緑にライトアップされた砂浜と隣接する渚デッキが海面に浮かぶクルーザーヨットや背後の夜景と相まって幻想的な空間を醸し出している。海浜のライトアップは世界的に有名な石井幹子^{もとこ}氏の監修によるもので日本初の試みであった。今では市の積極的な観光プロモーション戦略もあり、メディアに登場する機会も増え、年間宿泊客数は300万人近くまで急回復し、「遊んで楽しい」「食べておいしい」



ブロックで埋まった渚海岸

「見て感動する」熱海が戻っています。国内外の皆様にも美しい熱海を堪能していただきたいと思います。

3.終わりに

2020年に伊豆市で開催予定の東京オリンピックの自転車競技や伊豆7市6町が一体となって推進するジオパーク構想など伊豆の魅力が世界中に情報発信される機会が増えています。地球のエネルギーを肌で感じることのできる火山群や丹那断層、豊富な湯量を誇る温泉など言い尽くせない魅力ある伊豆ですが、一方で急峻な地形や脆弱な地質などの弱点も抱えていることから、安全・安心確保の観点からも伊豆8港の果たす役割は益々高まって来るものと思います。伊豆の魅力づくりにどのように港湾や漁港を位置づけていくのか今一度議論する良い時期に来ているのではないのでしょうか。

清水港、田子の浦港、御前崎港などの港湾計画に関わって来ましたが、新興津のコンテナターミナルに接岸する大型船や富士山を背景に貴婦人のように入港して来る客船などを見るにつけ、新しい海洋時代を実感する今日この頃です。

平成30年代初頭には、中部横断自動車道や新東名と圏央道連結など、強固な高速交通網が完成することから、港湾に関わる皆様には、現在進めている駿河湾港構想を確実に推進していただき、豊かで安全・安心な静岡が実現していただけるよう大信不約の気持ちを失うことなく情熱をもって取り組まれるようお願いいたします。



ライトアップされた渚海岸

港湾関係行事予定

(平成29年2月1日～平成30年1月31日)

日程	内容	日程	内容
毎月第1土曜日	海湖館朝市(湖西市)	7月中旬	国際カジキ釣り大会(下田沖)
2月18日(土)～2月20日(月)	第32回伊豆多賀わかめまつり(熱海市 長浜海浜公園)	7月中旬	マリンフェスタ(下田市内)
2月25日(土)・2月26日(日)	網代温泉ひもの祭り(熱海市 長浜海浜公園)	7月中旬	白浜海の祭典・花火大会(下田市 白浜大浜海岸)
3月11日(土)・3月12日(日)	南熱海お宿グルメフェスタ(熱海市 長浜海浜公園)	7月24日(月)	堂ヶ島火祭り(西伊豆町 堂ヶ島公園)
3月11日(土)・4月15日(土)・5月13日(土)・6月10日(土)	春季熱海海上花火大会(熱海市 熱海湾)	7月下旬	静波海水まつり花火大会(牧之原市 静波海岸・榛原港)
3月15日(水)・10月14日(土)	客船「フォーレダム」寄港(静岡市 清水港 日の出埠頭)	8月1日(火)～8月4日(金)	あたまビールまつり(熱海市 渚親水公園)
3月18日(土)～4月5日(水)	風の花祭り(下田市 まどが浜海遊公園)	8月3日(木)	伊豆山温泉納涼海上花火大会(熱海市 伊豆山港)
4月6日(木)・5月1日(月)・5月5日(金・祝)	客船「飛鳥II」寄港(静岡市 清水港 日の出埠頭)	8月4日(金)	第70回初島・熱海間団体競泳大会(熱海市 熱海湾)
4月12日(水)	客船「クリスタル・シンフォニー」寄港(静岡市 清水港 日の出埠頭)	8月5日(土)予定	御前崎みなと夏祭2017(御前崎市 マリンパーク御前崎)
4月16日(日)	客船「ドーン・プリンセス」初寄港(静岡市 清水港 日の出埠頭)	8月6日(日)	沼津千本浜トライアスロン大会、チームケズカップトライアスロン駅伝大会(沼津市千本浜)
4月19日(水)・8月19日(土)・9月30日(土)・11月20日(月)	客船「ダイヤモンド・プリンセス」寄港(静岡市 清水港 日の出埠頭)	8月8日(火)	弓ヶ浜花火大会(南伊豆町 弓ヶ浜)
4月21日(金)・9月25日(月)・10月7日(土)	客船「セレブリティ・ミレニアム」寄港(静岡市 清水港 日の出埠頭)	8月10日(木)	桜針祭の花火大会(伊東市 伊東海岸)
4月22日(土)・4月23日(日)	自遊食環フェア 御前崎シーサイドピクニック(御前崎市 マリンパーク御前崎)	8月10日(木)	さがら海上花火大会(牧之原市 さがらサンビーチ・相良港)
4月29日(土・祝)	大井川港朝市(焼津市 大井川港)	8月12日(土)	伊豆多賀海上花火大会&ビールフェスティバル(熱海市 多賀湾)
4月下旬	第41回さがら草競馬大会(牧之原市 さがらサンビーチ・相良港)	8月14日(月)	焼津海上花火大会(焼津市 焼津港外港)
4月予定	ポータウンパーティ(沼津市 沼津港)	8月14日(月)・8月15日(火)	安良里夏祭り(西伊豆町 安良里港) 14日花火大会
5月1日(月)～5月5日(金・祝)	第42回初島ところ天まつり(熱海市 初島港特設会場)	8月15日(火)・8月16日(水)	田子港祭り(西伊豆町 田子港) 15日花火大会
5月2日(火)・9月23日(土・祝)	客船「シルバー・シャドウ」寄港(静岡市 清水港 日の出埠頭)	8月16日(水)	伊豆多賀温泉百八体流灯祭&ビールフェスティバル(熱海市 多賀湾)
5月3日(水)～5月5日(金・祝)	なぶら祭り(御前崎市 海鮮なぶら市場)	8月16日(水)	網代温泉海上花火大会(熱海市 網代湾)
5月5日(金・祝)	相良風初節句神事(牧之原市 さがらサンビーチ・相良港)	8月18日(金)～8月20日(日)	土肥サマーフェスティバル(伊豆市 土肥港湾内)
5月7日(日)	客船「シーボーン・ソジャー」初寄港(静岡市 清水港 日の出埠頭)	8月21日(月)・8月22日(火)	伊豆山温泉さざえ祭り&花火大会(熱海市 伊豆山浜特設会場/伊豆山港) ※花火大会は22日(火)のみ
5月上旬	御前崎灯台まつり(御前崎市 御前崎灯台)	8月26日(土)・8月27日(日)	弓ヶ浜ビーチパレードフェスタ(南伊豆町 弓ヶ浜)
5月19日(金)～5月21日(日)	第78回黒船祭(下田市内各会場)	8月31日(木)	【閉場式】静波海水浴場・さがらサンビーチ(牧之原市 さがらサンビーチ・相良港)
5月27日(土)～5月29日(月)	天草・ところん祭り(西伊豆町 堂ヶ島公園)	9月2日(土)・9月3日(日)	ビッグシャワー・海洋浴の祭典(下田市 吉佐美大浜海岸)
5月27日(土)予定	第7回 御前崎みなとかつお祭り(御前崎市 御前崎魚市場)	9月18日(月・祝)・10月9日(月・祝)・11月12日(日)	秋季熱海海上花火大会(熱海市 熱海湾)
5月予定	沼津水産祭(沼津市 沼津魚市場 第一市場・INO)	9月中旬	大井川港釣り大会(焼津市 大井川港)
5月予定	ぬまづ港の街BAR(沼津市 沼津港・千本浜ほか)	9月中旬	夕映えの響き(西伊豆町 仁科港)
6月30日(金)	【海開き】静波海水浴場(牧之原市 さがらサンビーチ・相良港)	9月中旬	田子の浦ポートフェスタ2017(富士市 田子の浦港)
7月1日(土)	【海開き】さがらサンビーチ(牧之原市 さがらサンビーチ・相良港)	10月上旬	オータムフェスティンやいづ2017(焼津市 焼津港内港)
7月8日(土)予定	御前崎海水浴場海開き(御前崎市 マリンパーク御前崎)	10月17日(火)	客船「アムステルダム」寄港(静岡市 清水港 日の出埠頭)
7月16日(日)	田子の浦みなと祭り(富士市 ぶじのくに田子の浦みなと公園)	10月下旬	小川港さば祭り(焼津市 小川港)
7月16日(日)	踊夏祭トライアスロン大会(焼津市 大井川港)	11月12日(日)予定	第7回 御前崎マリンパークマラソン(御前崎市 マリンパーク御前崎)
7月16日(日)予定	マリンスポーツフェスタ(御前崎市、牧之原市 御前崎マリナー)	11月予定	千本浜ファミリーマラソン大会(沼津市 千本浜防潮堤)
7月21日(金)	網代ベイフェスティバル(熱海市 網代港)	12月10日(日)・12月17日(日)	忘年熱海海上花火大会(熱海市 熱海湾)
7月21日(金)	海の日海上安全祈願祭(富士市 田子の浦港)	12月22日(金)	とっておき冬花火大会(伊東市 伊東海岸)
7月23日(日)・28日(金)・8月5日(土)・8日(火)・18日(金)・20日(日)・24日(木)	夏季熱海海上花火大会(熱海市 熱海湾)	平成30年1月1日(月・祝)	初日なぶらイベント(御前崎市 観光物産会館)
		平成30年1月1日(月・祝)	静波海岸・さがらサンビーチ初日の出(牧之原市 さがらサンビーチ・相良港)
		平成30年1月2日(火)	漁船乗り初め(西伊豆町 仁科港)
		平成30年1月2日(火)	漁船乗り初め(西伊豆町 安良里港)
		平成30年1月14日(日)	春季熱海海上花火大会(熱海市 熱海湾)

編集後記 |

「静岡みなと通信」は、創刊から13年間、夏号・春号の年2回を発行してまいりました。平成28年度からは年1回の発行となりましたが、これからもよりよい紙面づくりに努めてまいりますので、今後ともご愛読いただけますようお願いいたします。

本年も例年以上に、当振興会及び東海地区港湾協議会活動に積極的な参加をよろしくお願いいたします。

今年が皆様にとって良い年になるようお祈り申し上げます。(K.H.)

当会では、会報誌面充実のため皆様からの港に関する情報やニュース・寄稿をお待ちしています。

関係団体の活動、イベントPRなど…どんな些細な事でも構いません。詳しくは下記連絡先までご連絡ください。

静岡みなと通信

編集・発行 静岡県港湾振興会

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 静岡県交通基盤部港湾局内

TEL.054-221-3052 FAX.054-221-2389 E-mail:shizu.kouwan@gmail.com